

身の経験に即して話をしてきましたが、皆さんにも、これから皆さんりの様々な出会いがあると思います。それは人との出会いでも、本との出会いでも、何でも良いと思います。それら一つ一つの出会いを大切にして、大学生活で何を学びたいのかをじっくり考えていただければと思います。

中国古代の天文・占術と文化

小倉 聖

1. はじめに

私は元々高校の時世界史をあまり勉強しておらず、吉川栄治氏や司馬遼太郎氏等の歴史小説を好んで読んでいた。中国史を専門にしようと思ったのは、宮城谷昌光氏の『孟嘗君』を読んだのがきっかけである。

大学入学後、学部では史学科、大学院の修士課程で中国哲学を専門にされている先生の元で勉強し、博士課程で歴史学系のコースに所属することとなった。現在では

中国古代の天文・占術を研究している。

歴史学系では文化史的な観点から天文や思想史の分野を研究可能であり、非常に懐が深く扱えるものが広い。

次に歴史学の懐の深さ、その扱える範囲の広さについて自分の研究を踏まえて、もう少し詳しく述べたい。

2. 現在の研究

私が現在研究しているのは「刑徳思想」もしくは「刑徳占い」といったものである。刑・徳という観念は中国の春秋・戦国時代において、政治・時令・災害と関わる重要なものだった。それが陰陽学説によって刑・徳は陰陽の観念となり、後に吉凶を含み、最終的に占術中の吉神・凶神となった。実際、このような刑・徳は天上を移動し、その運行形態・運行周期に基づいて占いが行われるようになった。

戦国時代から漢代にかけて、陰陽や占いの観念と刑・徳はなったが、伝世文献では『淮南子』天文訓に代表され、そこでは大

きく二種類に分けられている。一つ目は北斗七星の動きと連動した毎月の刑・徳の動きである「刑徳七舍」、二つ目は太陰の動きと連動した毎年の刑・徳の動きである「二十歳刑徳」である。太陰とは、十二辰で分割された天の「丑寅」と「未申」を結ぶ線を軸として歳星（木星）の位置と左右対称に置かれた観念上の天体である。

両者共に独自の理論を持ち、それぞれ異なる形で社会に受容された。前者は『太平経』等に見え、主に刑徳の動きから陰陽の盛衰・強弱を測るものとなった。陰が強い場合は生物・植物の活動が弱まり、逆に陽が強い場合は生物・植物の活動が活発になる。一方、これに対して後者は伝世文献では『漢書』等にもその使用例が見え、進軍方向の吉凶などを占う軍事占として用いられている。今回は前者の刑徳七舍について述べたい。

3. 刑徳七舍

先ほど述べたように、刑徳七舍は陰陽の

強弱を測定することで植物・生物の活動の活発さを測るものである。

刑徳七舎は北斗七星の一月毎の移動に基づいて、十二辰で分けられた天をさらに七つの空間に分けて、室天庭門巷術野と名前を付ける。この七舎の空間を、陰を表す刑と陽を表す徳が運行する。

次に陰と陽を表している刑・徳の位置を測るために、北斗七星に雌・雄の神を設定する。雄神は北斗七星の動きと同じ時計回りで子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の順に移動し、逆に雌神は北斗七星の動きとは逆の反時計回りで子亥戌酉申未午巳辰卯寅丑の順で移動する。この両者の神の位置がそれぞれ陰を表している刑と陽を表している徳の居る場所となる。雄神の位置が徳の居る場所となり、雌神の位置の対の位置（真向いの位置）が刑の居場所となる。

例えば雄の神が子のところであれば徳も子の位置にあり、逆に雌の神が子のところであれば、真向いの位置である午に位置することとなる。ほかの十二辰も同じような

操作を行う。

天を十二に分けたものを、さらに七つに分け室堂などの名称を与えたものが七舎である。門が中間地点にあり、七舎の内の室天庭は家の内側、巷術野は家の外側を指す。徳が外側にいれば陽が強くなり、刑が外側にいれば陰が強くなる。

ところで、この占いは六壬式と呼ばれている占いの基になっていると思われる。六壬式とは式占の一種で、太乙式・遁甲式と合わせて三式と呼ばれ、式盤を用いて行う占いである。式盤において、上部の円形のものが天盤、下部の方形のものが地盤である。

刑徳七舎は天にある北斗七星の動きと連動した刑・徳が地上の生活空間を表す七舎上を移動し、六壬式では天・地盤で構成されている式盤を占いに用い、地盤の辰と天盤の辰を対応させて占いを行う。刑徳七舎と六壬式の共通点は両者ともに北斗七星を用い、天・地などの二つの面を用いている点等である。

4. 結び

最後にこの六壬式と日本との関係について述べる。六壬式は日本の占術・陰陽道に影響を与えている。安倍晴明撰『占事略決』は『黄帝金匱經』等の日本陰陽道の教科書を基に製作されたものだが、これは六壬式の占術の解説等を行っている。

結局のところ刑徳七舎が元となり、そこから六壬式の占いが派生したと思われる。

「スロヴァキア史」を研究する

井 出 匠

私が現在に研究しているのは、あえて厳密に言えば、第一次世界大戦前のオーストリア＝ハンガリー帝国における、スロヴァキア民族運動の歴史です。それで、あなたは一体何の研究をしているのか、と人に聞かれたとき、大抵の場合、私はスロヴァキアの歴史を研究しています、と答えます。